

## 出勤の朝

朝霧をついて仕事に出ていくとき

オレは自分の神々しさに

われながら驚くくらいだ

こんなオレに

誰かが後ろで手を振ってくれていないかと

誰もいない野道を振り返って見る

(二九五六・九)